



AIが子どもたちの将来を奪う？

「2030年代あるいは2040年頃に汎用AIが出現する」
 こう予想したのは3年前です。それがもう実現しました。生成AIの開発スピードは、予想をはるかに超えています。

そうなれば人間の労働の多くはAIによって代替されてしまいます。そして、その兆候はすでに始まっています。ドローンや自動運転が普及すれば、運転手は必要なくなり、小売業だけではなく運送業にもほとんど人はいらなくなります。スーパー

のレジのセルフ化やコンビニの無人化は、もう始まっています。

今の子どもたちが社会に出たときにAIに職を奪われてしまうかもしれません。弁護士、税理士、医師、教師も一部の仕事をAIで代替可能なことは、今でもすでに行われています。技術進歩が経済成長と雇用の減少を生み出すのは普遍則です。

AIにより「需要不足による失業」が増加し、AIに代替できない仕事を持つ人は、労働可能人口の約1割になり、残り9割は仕事なくなってしまう事態になってしまうという予想もあります。それを21世紀における新たな「役立たず階級」の出現として危惧している歴史学者もいます。また、AI社会では、企業が淘汰されていく危険も大きいと指摘しています。

「AIが絶対できないお笑い芸人になる。」と言った子がいました。「お笑いのネタもAIが考えてくれるようになるかも?」、「そしたらAIをつくる人になる。そのために、いっぱい勉強する。」と言いました。



「年賀状」もう書きましたか？



昨年の年賀状を整理していると、「年賀状は、今年限りにすることにしました」と先輩や同僚からのものが何枚かあって、これも「終活」の準備なのか?と思いました。近頃は、年賀状の是非論もあり、単なる儀礼と考えてやめる人やラインなどSNSに切り替える人も多く、年賀はがきの売り上げ枚数は年々減少しています。

江戸時代の商人たちが真っ先に年賀状を送った先は、取引で思わしくなかった人やトラブルのあった人など、気まずい思いをした人たちだったそうです。なかなか出来ないことを、たじろがずに出す勇気、不穏な状態になったときの決断力!人情味のある江戸商人たちのこうした真の優しさこそ、粹で素敵なくさです。

最近では、家族の写真入りの年賀状を自宅のパソコンで作るのが多くなり、手書きする人はめっきり少なくなりました。普段疎遠にしている人だからこそ、一言添えて、互いの安否を気遣い、新年の言祝ぎとその喜びを交わしたいものです。自分はまだしばらく、あて名書きくらいは、手書きにするつもりです。

神対応! スマホの SmartNews で、幼児教育について検索することが多くなると勝手に関連記事を多く載せてくれます。その中にこんな記事がありました。

「早く泣き止ませろ!」電車で泣く赤ちゃんに怒鳴る男性、その時、見知らぬ青年が…!?
 「赤ちゃんより、そっちの方がずっとうるさくて、よっぽど迷惑です。そんな怖い顔をした人が、近づいて泣き止むわけがないでしょ!」心がホットステーションになる話です。



～12月18日(月)から12月22日(金)までの予定～

- 18日(月) 訓小、居小との合同交流 (5歳児)
- 19日(火) **「お弁当の日」** 居小との(事前交流) ふれあい集会 (5歳児)
- 20日(水) クリスマス会(わくわく English)、消防サンタ来園、職員会議A
- 21日(木) 誕生会、職員会議B
- 22日(金) お集まり会・冬の安全指導 *23日(土) から1月16日まで冬季休業



日に日にツリーの飾りが増えて、クリスマス気分が高まっています。